

こんにちは。
町長です。



国保町立小鹿野中央病院が果たす役割

現在の国保町立小鹿野中央病院が開設されたのが、昭和28年5月ですから、それから65年が経過いたしました。

医師が5人で36床のスタートであると聞いております。当時は戦後の混乱がまだ残っ

ているような時代背景があったかと思いますが、医療過疎の小鹿野町に町立病院が開設できたのは、町民の熱い思いとそれを受けた町当局や町議会の大英断であったことが拝察されるところで

町立病院は、その後町民の命と健康を守る中核施設として、機能を果たしてまいりました。その間の医師をはじめ、看護師や多くの医療スタッフ等が懸命の努力をし、町民本位の病院運営に努めて来たところで

その後時代の変遷の中で町立病院を取り巻く環境も大きく変化し、総合健診センターの開設、病床数の拡大や高度診察機材の導入などが進められました。町の保健や福祉事業の拡充、特に平成12年度から介護保険法も施行され、介護保険事業もスタートしました。

平成14年度には町立病院病床増改築が完了し、一般病床45床、療養病床50床の合計95床となりました。また、同年度には町立病院に保健福祉センターが併設され、「地域包括ケアシステム」が本格稼働いたしまし

た。このシステムは、町民の願いである「住み慣れた地域で最後まで安心して暮らしたい」をかなえるため、保健・医療・福祉（介護）が一体となり、サービスを提供するものです。具体的には、医療介護が必要な人に、それぞれの専門職員（医師、看護師、保健師、ケアマネ、訪問看護師、ヘルパー等）が連携し総合的に係わる体制であり、病気の治療だけでなく、住民の健康づくり、病気の予防、健診、在宅ケアからリハビリテーションまで一貫した役割を果たしており、町立病院はその中核的存在であり、地域の医療機関との連携も図っております。

町では、町立病院を中心に保健・福祉部門が連携し、地域住民の皆様と一緒に取り組んできた様々な事業が功を奏し、埼玉県内で75歳以上の高齢者などの一人当たりの医療費が一番低い町となりました。これからも町民の健康寿命を延ばせるよう引き続き様々な事業を進めてまいります。

なお、今後の町立病院としましては、国の制度改正により療養病床の転換等が求められていますので、地域包括ケアシステムを守りながら、この地域に合った病院のあり方を検討してまいりたいと考えております。

町民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

小鹿野町長 森 真太郎